

★1月号の特集は、幼児期の性、話せてる？

性のことはとても大事だけど、どう子どもに話したらいいのかわからない方が多い現状のようです。性について、改めて学ぶ貴重な特集です。

◎子どもの性と生を考える懇談会(21頁)：谷野則文(アトム共同保育園)

さんは「性教育を通して正しい知識を子どもたちに伝える工夫を考えることも大切ですが、子どもが成長の過程で迷ったり、不安な時、気軽に相談できる雰囲気のある親子関係が大切ではないか？そして、親一人で迷った時は、親が信頼できるおとなのなかまの存在が必要ではないか？ということではないかと思います。保育園の懇談会は、そうしたおとなの関係をつくる絶好の機会ではないでしょうか」と、懇談会を通して大切なことをまとめられています。

◎子どもたちの声を聞き ゼロ歳児から場面を積み重ねて(22頁)：

藤林直美(東京都北区・豊川保育園看護師)さんは、保育園入職後1年足らずの時、「保健のはなし」の時間で「子どもたちは何を知っているのだろうか？どう思っているのか？知りたいと思い『からだの中のとても大事なところはどこ？』『いのちって知ってる？』と、聞いてみました。なんと！これが、私の一番の学びでした」と。藤村さんは保育園看護師の経験を積んだ今、「振り返ってみると、『たいせつ』の意味を獲得していくのと同じように、『性』にまつわる関わりも、おとなも子どもも日常的にしている」ことに気づき、「性の話しをしましょう！と、肩ひじを張らなくていいのだと思います」と。そして、「子どもは先入観なく身体に興味を持っている」、「そんな子どもたちに日常の中で伝えていくのは私も楽しい」と。

◎おうちで話そう 幼児期からの性教育(28頁)：峯山秀美(京都市・

朱い実保育園保護者)さんは、思春期の子どもといきなり性の話をするのはハードルが高いけど、「幼児期の子どもたちは性に対する先入観がありませんから、実はとても話しやすいんです」。峯山さんの家庭では3歳から性教育を始めました。しかし、おとなも学ぶ必要があると感じ、「どう学ぼうか悩んでいたところへ、保育園の保護者なかまから、おすすめの性教育講座があると教えてもらい受講。そこで出会った助産師に依頼し、保育園で「親子で学ぶ性教育講座」を開催。おとなにも好評で、次の年は大人講座も開催。「日常生活で気になった対応や子どものようすを話せる機会となり、おとなにも性の相談先がないということを実感しました。性教育を学ぶと、過去の自分の言動を反省す

ることも多く、おとなも日々、積み重ねです」と。

◎(小論) 幼児期の性教育で大切にしたいこと(34 頁)：良(うしとら)香織(宇都宮大学)さんは、①性は「わたしがわたしをどう生きるか」に深く関わっており、つまりは人権、②おとな自身の性の価値観を見つめることは、子どもの性教育の最初の一步、③子どもをどういう存在として捉えるか(こども観)を自らふり返り、子どもの権利とは何かをおさえておくことも大切、④国際的な到達点は「包括的性教育」。この学びは自分のからだは自分で整え、誰にも侵害されないという感覚を育む、⑤性教育は、子どもに関わるあらゆるおとなすべてが、日々の子育て・保育の中で、何度もくり返し、さまざまな形で行うことが重要、⑥性の学びは誰もが当事者。人権に関わる性を学ぶ権利が十分に保障されてこなかった大人こそ、肩の力を抜いて、学び続けてほしい、と。

★(小特集) コロナ禍で増える若年妊産婦の相談支援(42 頁)：佐藤初美(NPO 法人 10 代・20 代の妊娠 SOS 新宿—キッズ&ファミリー)さんは、①男女ともに自己肯定感が低く、将来の夢や希望がもてず、日々が刹那的で愛情の確認が性行為と思っている相談者(学生と 20 歳前後の社会人)は少なくない、②乳幼児期に、子どもと家庭に適切な対応や支援が届くように、保育者は五感を磨き、虐待や養育困難な環境にいる子どもや困難を抱えている家庭に早く気づく力を高める努力がいっそう必要、③コロナ禍で、親が自宅にいて電話相談がしにくくメール相談が増加。相談内容は、家庭内における中高生の性的虐待や性暴力、一番安全で安心なはずの家庭が恐怖の場になっている、④幼児期から発達段階に応じた性教育＝命の教育＝人権教育の充実が必要、⑤大人が大事にしたい私たち(NPO 法人 10 代・20 代…)の提言を紹介しますと。

☆今月の「チョコゾーが行くゾー」(57 頁)では、性教育の実践！
☆book! (60 頁)で、性教育の本 2 冊紹介しています

☆☆

白石正久先生の新著を特別価格で頒布

『子どもの心に聴きながら **発達を学ぶ**ちいさいな本』

定価 1,320 円(税込)ですが、『ちいさいなかま』と保育センター会員は、
1冊 1,200 円(税込・送料・振込料含む)

本の申込みは保育センターへ FAX092-781-1995

Eメール:center5234@rose.plala.or.jp